

可憐な日本さくらそうに魅せられて 貴重な苗の栽培普及に情熱を傾ける。



荒川区役所前展示

【プロフィール】 昭和8年、荒川区荒川2丁目生まれ。昭和34年より、さくらそう会の会員として、日本原産さくらそうの栽培と普及に努める。昭和61年より、荒川区役所でのさくらそう展示を開始。旧荒川信用金庫（城北信用金庫）を定年退職の後、平成6年に「荒川さくらそう会」を発足させ、以降、本格的な活動を続ける。



みやもと よねきち
宮本 米吉さん

『荒川さくらそう会』世話人代表

第220回 荒川の人

「日本さくらそう」の花言葉は「初恋」。私たちが一般的に「さくらそう」と聞いて思い浮かべ、花屋さんで見かけるのは欧米産のプリムラ（西洋桜草）と呼ばれるものです。日本を原産とする日本さくらそうは、環境庁から絶滅危惧種の指定を受けるほど激減し、現在では、なかなか見る機会の少ない、たいへん貴重な植物です。毎年4月に荒川区役所の正面玄関で行われる「さくらそう展示会」に見事な鉢を出品する、荒川さくらそう会。その世話人代表を務める宮本米吉さんは、日本さくらそう（以下、さくらそう）に魅せられ、普及栽培に長年貢献されています。

今年79歳になる宮本さんが生まれ育ち、現在も住まうのは荒川区役所の裏。5月に訪ねた「自宅の庭」には、展示を終え、翌年のために花を摘んで葉っぱだけになったさくらそうの鉢が一面に並んでいました。

江戸時代にさかのぼる さくらそうと荒川の関わり

「私とさくらそうの出会いは50年以上昔にさかのぼります。もともと植物が好きで、昭和34年に日比谷公園で開催された展示会を見に行き、初めて見る可憐な姿に一目惚れ。その場で『日本さくらそう会』に入会しました。会の先輩方が苦労して苗を収集・栽培したりされていて、最初は、その貴重な苗を分けていただくことから始まりました」

江戸時代には、白魚とともに春の風物詩として扱われてきた、さくらそう。文政10（1827）年に刊行された『江戸名所花暦』は、いわば、お江戸の行楽ガイドですが、この中に『尾久原 桜草』という挿絵があり、早春、隅田川べりの尾久の原に咲くさくらそうを愛でる人々が描かれています。野生のさくらそうが観賞用に栽培されるようになったのも同じ

「江戸時代、殿様がお狩り場として訪れた荒川上流に咲いていたさくらそうを気に入ったため、献上品として人気になったとのこと。品種改良も行われ、たいそう盛り上がったのですが、明治維新、関東大震災、戦争などによって花どころではなくなったのです。こうした受難の時代に、将軍を案じた人々が苗を守り、存続への道をつないでいったと聞きました。」

「さくらそうは、とても栽培が難しい花です。聞きかじりで栽培を始めたものの、枯らしたり、芽がつかなかったり、失敗を繰り返しました。めげずに真心こめて育て続け、思うような花が咲き、芽をふやすことができるようになるには、10年以上もかかりました」

毎春の開花を楽しみに 丹精こめて育てあげる

荒川区役所でのさくらそう展示会は昭和61年4月以来毎年欠かさず、今年で27回目となりました。最初は、宮本さんも会社勤めをしながら出品していましたが、平成6年に「荒川さくらそう会」を立ち上げることに なります。

「定年になって時間もでき、本格的に会を発足しました。『江戸名所花暦』にあるように、さくらそうは荒川ゆかりの花ですし、回りの方々にも強くすすめられ、日本古来のさくらそうを多くの方々に知っていた

「江戸時代、殿様がお狩り場として訪れた荒川上流に咲いていたさくらそうを気に入ったため、献上品として人気になったとのこと。品種改良も行われ、たいそう盛り上がったのですが、明治維新、関東大震災、戦争などによって花どころではなくなったのです。こうした受難の時代に、将軍を案じた人々が苗を守り、存続への道をつないでいったと聞きました。」



『江戸名所花暦』より「尾久原桜草」。もとは白黒の2枚の絵を1つに合わせ、彩色を施したものです。



宮本さんが名付け親となった「尾久の輝（かがやき）」（上）「峽田の思い」（右）

「だくよう、会として活動するのは意義があることと思っただけです」

「荒川さくらそう会」では苗の配布、栽培の指導、展示会の開催、見学会、会報の発行などが行われています。現在の会員数は20名足らずで、少ないと思われるかもしれませんが、同じ品種が重ならないよう、会員1人に年1回5品種の苗を配布。その苗も宮本さんが増やした中から咲きそうなものを選別して渡すので、すから、現状でも手一杯なはず。年1回発行する会報では、掲載するさくらそうの写真撮影から解説、校正までを宮本さんが担当しています。もちろん、年間を通してのさくらそうの栽培には手を抜きません。春には発芽と開花の記録をつけ、荒川区以外にも靖国神社や向島百花園にも出展します。夏には熱さよけの寒冷紗で覆い、お正月明けの厳寒期には、500以上ある鉢のすべての芽を分け植え替えを行います。そのほかにも、品種の名前を判定したり、新しい品種に名前をつけたりもしています。

生半かな情熱では行えないと思うほど手のかかる多くの作業を宮本さんはこなされています。50年を超えるライフワークとなったさくらそう、その一番の魅力をたずねると「可憐さ」と、初恋の人を語るときのように少し照れながらお答えいただきました。宮本さんが愛し守ってきたさくらそうを、来春にまた、区役所前で見せていただけることを楽しみにしています。

「だくよう、会として活動するのは意義があることと思っただけです」

「荒川さくらそう会」では苗の配布、栽培の指導、展示会の開催、見学会、会報の発行などが行われています。現在の会員数は20名足らずで、少ないと思われるかもしれませんが、同じ品種が重ならないよう、会員1人に年1回5品種の苗を配布。その苗も宮本さんが増やした中から咲きそうなものを選別して渡すので、すから、現状でも手一杯なはず。年1回発行する会報では、掲載するさくらそうの写真撮影から解説、校正までを宮本さんが担当しています。もちろん、年間を通してのさくらそうの栽培には手を抜きません。春には発芽と開花の記録をつけ、荒川区以外にも靖国神社や向島百花園にも出展します。夏には熱さよけの寒冷紗で覆い、お正月明けの厳寒期には、500以上ある鉢のすべての芽を分け植え替えを行います。そのほかにも、品種の名前を判定したり、新しい品種に名前をつけたりもしています。

「だくよう、会として活動するのは意義があることと思っただけです」

「荒川さくらそう会」では苗の配布、栽培の指導、展示会の開催、見学会、会報の発行などが行われています。現在の会員数は20名足らずで、少ないと思われるかもしれませんが、同じ品種が重ならないよう、会員1人に年1回5品種の苗を配布。その苗も宮本さんが増やした中から咲きそうなものを選別して渡すので、すから、現状でも手一杯なはず。年1回発行する会報では、掲載するさくらそうの写真撮影から解説、校正までを宮本さんが担当しています。もちろん、年間を通してのさくらそうの栽培には手を抜きません。春には発芽と開花の記録をつけ、荒川区以外にも靖国神社や向島百花園にも出展します。夏には熱さよけの寒冷紗で覆い、お正月明けの厳寒期には、500以上ある鉢のすべての芽を分け植え替えを行います。そのほかにも、品種の名前を判定したり、新しい品種に名前をつけたりもしています。

おくらむ収納から、ゆとりの収納へ!

トランクルーム 貸し納戸

安心な管理人常駐!!管理費・共益金ナシ!!天井高3mで収納抜群!!

月額 8,085円（税込） / 毎月利用料のみ

2階 割安ブース完成!!

3階 若干空きあり!!

NEW

詳しくはホームページをご覧ください
※空室はお電話にてご確認ください。

引越しの合間に家具の収納として、シーズンオフの生活用品やスポーツ用品の収納に。

泰山堂 トランクルーム 東京都荒川区荒川4-48-3
TEL03-3802-8888 (8:00~19:30) FAX03-3805-2690

http://www.okubopp.co.jp/

使わなくなった指輪・ネックレスなどの貴金属を

お売りください

タンスや引き出しに眠っている貴金属をお持ち下さい。傷が付いていても、壊れていても構いません。

◎指輪一個から買取致しております。お気軽にご来店下さい。

金・プラチナ各種インゴット地金の小売販売も行っております。

営 10:00~16:30 休 土曜日・日曜日・祝日

HP <http://kaitori.ijimakk.co.jp> (PC) <http://kaitori.ijimakk.co.jp/m> (mobile)

東京都荒川区東日暮里5-47-10
TEL 03-3806-2120 FAX 03-3806-2368

社団法人 日本金地金流通協会 正会員 創業40年 貴金属地金商

井嶋金銀工業株式会社